『高等学校入学者選抜制度』（第二次案）公表

中学校生活をゆがめる入試制度でいいのか？

入試制度（第二次案）についてごいっしょに考えましょう

前期にも学力検査。前期後期とも「その他の検査」実施。「得意活用型選考」を新設など、とても複雑でわかりにくい。

不登校生への配慮として、本人の「資質や能力を多面的に評価するための説明書」を付けるとのこと。説明書って何？求められる資質能力がなければいけないのでしょうか？

2021年度に制度の内容を公表したら、説明会を実施という予定。それまでは県民の意見は聞かないの？決まったことの説明だけでいいの？

今の入試制度を変えないといけないの？子どもたちにとってどうなのでしょうか？

「2022年度からの実施は早すぎる」「当事者への説明不足」などの意見を伝えたことやコロナ禍の状況で課題の検討などがすすんでいないこともあり、新しい入試制度の導入は2024年度まで延期されました。

今の小学校5年生が受験する年

「入試制度について考えるフォーラム」に参加して、ごいっしょに考えましょう。

フォーラムの日時・会場はこちらで確認を

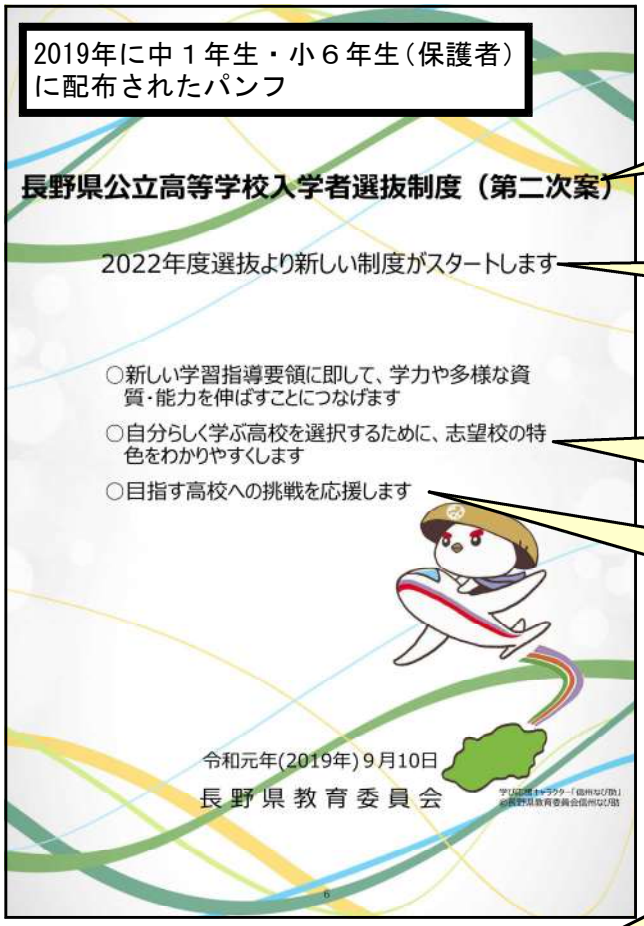
「第二次案」の詳細は県教委HPで

長野県の教育を考える会
事務局：長野県教職員組合
TEL　026-235-3700
MAIL　kyoubun@ntu-net.com

https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/goannai/kaigiroku/h31/teireikai/documents/1055_g3.pdf

新たな入試制度のここが疑問！問題あり！

2019年に中１年生・小６年生（保護者）に配布されたパンフ

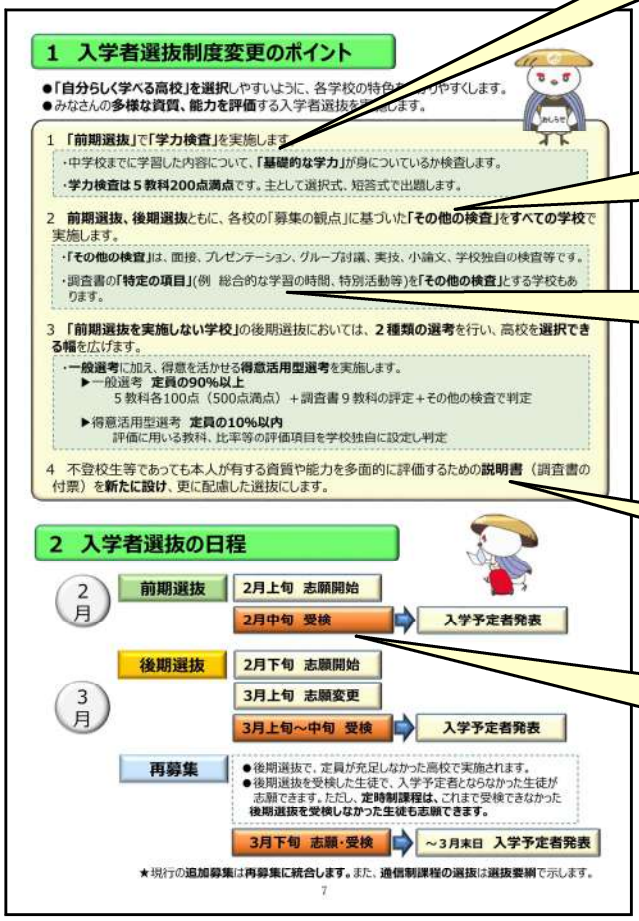


あくまでも「案」ということです。今後意見を聞き取り、それを反映して、成案にしていくということ。よりよい制度にするために意見を届けましょう。

その後、導入が拙速すぎるとの意見やコロナ禍の影響により2024年度導入に変更されました。

中学生段階で「自分らしく学ぶ高校を選択する」のは難しい。高校段階で進路をじっくり考える子が多いのではないか。高校の特色化は学校間競争を招く。子どもたちの高校選択を狭めることが危惧される。

「挑戦を応援します」とは、誰が、どのように応援するのか？各高校が「募集の観点」を示すことや「得意活用型選考」を導入することが応援なのか？



1　入学者選抜制度変更のポイント

●「自分らしく学べる高校」を選択しやすいように、各学校の特色をわかりやすくします。
●みなさんの多様な資質、能力を評価する入学者選抜を実施します。

1　「前期選抜」で「学力検査」を実施します。
・中学校までに学習した内容について、「基礎的な学力」が身についているか検査します。
・学力検査は５教科200点満点です。主として選択式、短答式で出題します。

2　前期選抜、後期選抜ともに、各校の「募集の観点」に基づいた「その他の検査」をすべての学校で実施します。
・「その他の検査」は、面接、プレゼンテーション、グループ討議、実技、小論文、学校独自の検査等です。
・調査書の「特定の項目」(例　総合的な学習の時間、特別活動等)を「その他の検査」とする学校もあります。

3　「前期選抜を実施しない学校」の後期選抜においては、２種類の選考を行い、高校を選択できる幅を広げます。
・一般選考に加え、得意を活かせる得意活用型選考を実施します。
▶一般選考　定員の90%以上
５教科各100点（500点満点）＋調査書９教科の評定＋その他の検査で判定
▶得意活用型選考　定員の10%以内
評価に用いる教科、比率等の評価項目を学校独自に設定し判定

4　不登校生等であっても本人が有する資質や能力を多面的に評価するための説明書（調査書の付票）を新たに設け、更に配慮した選抜にします。

2　入学者選抜の日程

2月
前期選抜　2月上旬　志願開始
2月中旬　受検 → 入学予定者発表

3月
後期選抜　2月下旬　志願開始
3月上旬　志願変更
3月上旬～中旬　受検 → 入学予定者発表

再募集
●後期選抜で、定員が充足しなかった高校で実施されます。
●後期選抜を受検した生徒で、入学予定者とならなかった生徒が志願できます。ただし、定時制課程は、これまで受検できなかった後期選抜を受検しなかった生徒も志願できます。
3月下旬　志願・受検 → ～3月末日　入学予定者発表

★現行の追加募集は再募集に統合します。また、通信制課程の選抜は選抜要綱で示します。

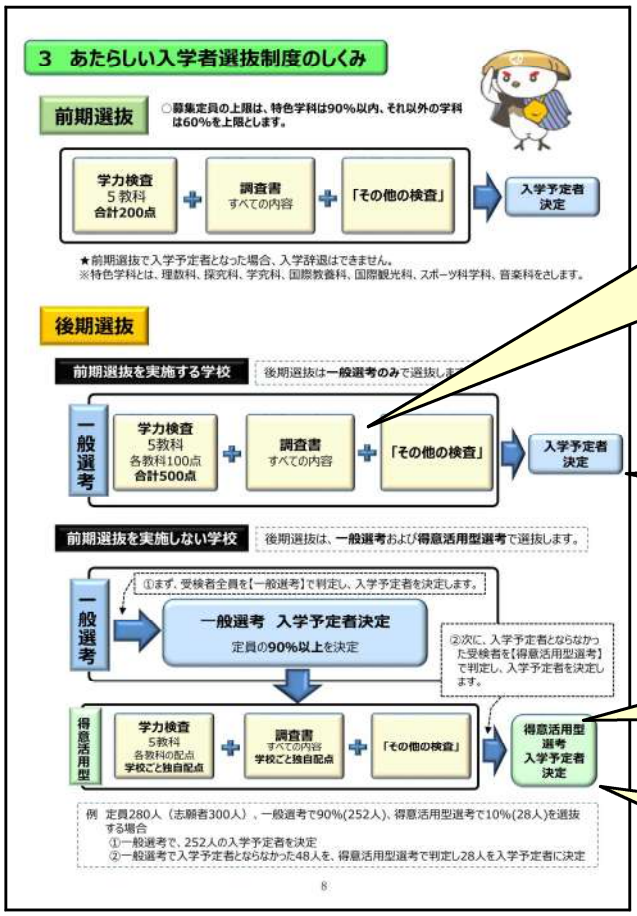
7

「その他の検査」は何のためにするのか？公平性のある評価ができるのか？検査が高校によってちがうので、それに合わせて準備が必要になる。中学校で対応できるのか心配。塾に行く子が増えるのでは。

調査書の「特定の項目」の記述内容が選抜に影響すれば、記述する教員の責任が重くなったり、子どもが評価を意識して行動したりするようになる心配がある。

評価されるような「資質能力」を「説明書」に示すことを求められたら、不登校の生徒にさらなる負担になる。

前期選抜の合格発表から後期選抜の志願開始までの期間が現行より1週間程度短くなる。不合格生徒の心のケアや後期選抜への進路指導等が十分できない心配がある。

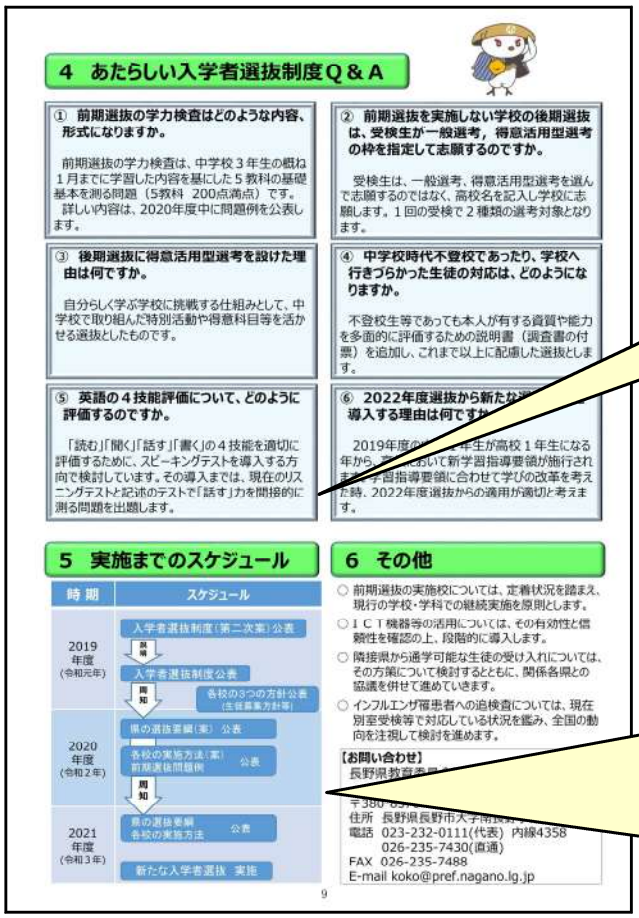


調査書の全ての内容(9教科評定、観点別評価、総合的な学習・特別活動の記録、行動の記録、総合所見等)を選抜の資料とするのは、公平性の上で不安がある。特に「観点別評価」の基準、特別活動や総合的な学習の活動や記述された内容は学校によってちがう。一律に評価できないのではないか。

学力検査・調査書・その他の検査の比率は各校で決めるとのことで、何がどの程度選抜に影響するのか不安がある。

「得意活用型選考」により特定の教科に偏った学習をする子が出る心配がある。ますます受検のための学習になり、中学校教育をゆがめる心配がある。

得意科目を活かせるとして「得意活用型選考」が強調されているが、高校により特定の教科に傾斜配点することは、制度を複雑にして、子どもたちの高校選択を迷わせる心配がある。



スピーキングテスト導入の方向とあるが、いつからか？どのような形式のテストになるのか？そのために準備することがさらに増えたら、生徒の負担がさらに増加する。塾に通う子が増えるのではないか。

導入が拙速すぎるとの県民の意見やコロナ禍による検討の遅れ等により、県教委は実施までのスケジュールを右のように変更しました。
今年度から来年度中頃まで「課題の検討」となっています。私たちの意見反映を求めましょう。

現行の入学者選抜制度の仕組み

2月上旬

前期選抜

＊2004年～
全校でスタート
＊2011年～
各校の判断で実施

面接・小論文
実技　等
63校
↑
志願理由書
（自己PR）

実施校は
「募集の観点」
を示す

→ 前期合格発表

3月上旬

後期選抜

学力検査
全校
1日目

学校の判断で
実施（専門高
校・地域高校
など）

面接
31校
2日目

→ 後期合格発表 → 再募集 → 追加募集（定時制）

新たな入学者選抜制度(二次案)の仕組み

前期選抜を行う学校・学科・課程

現行50%上限を60%へ拡大

前期選抜（定員の60%以内、特色学科は90%以内）

志願（2月上旬）→ 受検（2月中旬）

- ●各校は「募集の観点」を公表
- ●学力検査
  - ・5教科200点満点で実施。
    基礎的な問題。形式は選択式、短答式を主に。
- ●調査書は9教科の評定、観点別評価を含め、全ての記載内容を選抜の資料とする。
- ●その他の検査
  - ・「面接」「実技」「小論文」「学校独自の検査」など
  - ・その他の検査として、調査書のうち特定の項目を取り出して用いる場合もある。

調査書に観点別評価が入ります

→ 合格発表 2月下旬

前期・後期とも「その他の検査」を新たに導入。

前期・後期とも調査書の特定の項目を「その他の検査」として選抜資料とする場合あり。

前期と後期の間が1週間程度短くなる。

前期選抜を行わない学校・学科・課程

前期にも学力検査を新たに導入。

「一般選考」と「得意活用型選考」の二つの選抜基準を設ける。

学力検査の得点の比率変更や、特色ある「その他の検査」の前提として、各学校の「特色づくり」が求められ、高校は特色競争に追われることが危惧される。

後期選抜

志願（2月下～3月上）→変更→受検（3月上・中）

一般選考

- ●5教科＊リスニングあり（各50分、500点満点）
- ●調査書はすべての記載内容と9教科の評定を用い、教科間の比率変更はできない。
- ●その他の検査
  - ・「面接」・「実技」・「学校独自の学力検査」など
  - ・その他の検査として、調査書のうち特定の項目を取り出して用いる場合もある。

一般選考 ＋ 得意活用型選考

一般選考	上　記	90%以上
得意活用型選考	●一般選考で先に定員の90%以上を判定したあと、得意活用型選考で10%未満を判定し入学予定者を決定する。 ●評価に用いる教科、5教科の得点の比率は各校で独自に決定する。 （例：英語を200点として計算する、理数の得点のみを使うなど） ●調査書の9教科の評定の比率は各校で決定する。 ●その他の検査 ・「面接」・「実技」・「学校独自の学力検査」など ・その他の検査として、調査書のうち特定の項目を取り出して用いる場合もある。	10%未満

得意活用型選考の比率を30%以内から当分の間10%以内に変更

→ 合格発表 3月中上旬 → 再募集 3月下旬

追加募集を再募集に統合。後期選抜未受検者も定時制の再募集へ志願できるように変更。